

大豆の成長の力強さと美しさ

塩川小学校 六年 平宮 蒼唯

私は穀類を育てたことがない。穀類を代表するものそれは大豆である。大豆は納豆、みそ、豆ふなど身近な食品に使われている。姿を変え私達の食卓に並ぶ大豆が、どのように育つのかを学習できたのが今年の農業学習だ。

種まきは初夏に行われた。ふわふわの優しい土をポットに入れ種を数つぶまいた。そして土の中で温められている種の成長を待った。発芽まで鳥に食べられない様に、カバーをかぶせて種を守る工夫を先生から教わった。農業は注意しなければならぬことが多く、色々と工夫されている事を知った。毎朝観察するのが日課となったある朝、ヒョロヒョロとした小さい芽が土をおし上げ顔を出していた。私は胸が高なるぐらいうれしく大切に育てようという目標ができた。芽が少しのび育つころ、畑に植えかえる作業が行われた。その苗からどのように大豆が実るのか、成長が待ち遠しい気持ちでワクワクした。真夏の太陽の下でグングン育つ大豆。ところが今年はまだ暑で雨が降らず節水が求められていたので苗が大丈夫か心配だった。ある日近くを通ると強い日差しの下、小さなスイトピーのような可愛

らしい花が咲いていた。天候に負けず咲く小さな花の力強さを感じた。その花が咲き終わるとサヤがふくらみ枝豆として食されるらしい。そして肌寒くなってきたころ畑へ収かくに向かうと完全に葉は落ち、きれいな花を咲かせていたあのころと比べると、全くちがう光景を見せた。毛に守られたサヤをゆするとカラコロと音を立て大豆が収かくを待っていた。収かくした大豆を手にのせるとピカピカと光りその姿はまるで真珠のようだった。そして天候に負けないう大豆の強さを感じた。大豆は畑の肉と呼ばれるほど栄養が豊富と言われている。体づくりにはかかせない食材であり、その恵みで人は生きていく。

私は三年間の農業学習で、自然の恵みに感謝して命をつなぐ大切さを学んだ。人は色々なものに支えられて生きていく。その学びを私は今後の人生の中で生かしていこうと思う。